

1985年核データ研究会準備会第4回会合議事録

日 時 昭和60年8月29日(木) 13:30~17:30
場 所 原研本部第5会議室
出席者 吉田, 松延, 中嶋, 木村, 大竹, 中沢, 水本, 浅見, 中川, 五十嵐

配布資料

1. 前回議事録
2. 王大海氏から鹿園氏への手紙
3. 核データ研究会プログラム案

I 前回議事録確認

承認された。

II 経過報告(五十嵐氏)

前回会合で提案のあったプログラム粗案を基にして、プログラム案を作り、関係者に配布して意見を聞いた。主な返事は、

(i) 神田氏(東北大): 講演を辞退したい。

この件につき梶山氏に連絡をした。梶山氏から平川氏に再度連絡するとの返事があった。(後日、梶山氏から平川氏が講演する旨返事あり)。

(ii) 梶山氏(東北大): 討論時間を明示すること。

(iii) 竹田氏(阪大): 錦織氏に交代したい。

中国からは正式な返事がないが、王氏から鹿園氏に4名の派遣を予定しているとの手紙が来た(資料2)。当方からは原研に入る際に必要な提出書類を送って返事を待っている。

パキスタンのGul氏から旅費が出れば出席したいとの連絡があった。旅費は出せないが期間中の滞在費は出せる、と返事した。

III プログラム案の検討

資料3により検討を行った。

前記神田氏の代りについて議論があったが、梶山氏に調整を依頼し、その結果を待つことにした。(結果は前記の通り。)

全体としては、中国の出席状況による組みかえを考慮して、代案を用意する必要がある。

重核のセッションにPNCの常陽燃焼測定解析の成果を入れることにし、吉田氏(N A I G)に講師を依頼した。

プログラム案の大幅な組みかえを行い、初日にJ N D Cの活動と中国の活動を持ってきて、2日目の午后に絶対測定と相対測定を移した。ポスターセッションは2日目に集中して行う。

IV ポスターセッションについて

この係を水本、吉田、秋山の3氏に依頼する。

テーマは「中性子断面積測定施設」とし、装置の特長、これまでの成果、得意領域、今後の計画などを示してもらおう。連絡先としては
(敬称略)

東北大(梶山)、東大工(中沢)、原研(Linac, Tandem, F N S)、武工大(相沢)、東工大(北沢)、名大(加藤)、阪大工(高橋)、京大炉(木村、他)、九大(神田、隈部)、電総研(道川)、核研(中村)、立教(白土)

V 今後の日程

核データニュース、学会誌に掲示する。

Second Circularを9月中旬に出す。

出欠の返事が10月20日までに届くように案内を出す。アブストラクト(A4で1枚)の原稿締切りは10月末とし、それまでに届いた分は核データでコピーして用意するが以後の分は講師が持参する。

ポスターセッションの準備は担当者に一任する。

VI その他

研究会の性格について再び議論があった。要点は以下の通り

- (i) シグマ委員会中心の研究会である。
- (ii) Internationalまたはこれに類した呼称がないとアジア地域からの出席は困難であろう。
- (iii) 英語による講演もこう言う点を配慮する必要がある。今回は英語で講演することに決まっているが、今後の用語については試行錯誤的にとらえて行くべきである。

木村氏が9月下旬に訪中するので、連絡事項があればそれまでに伝えてもらうよう準備をする。